

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会in川越

いすみ市の自然と共生する里づくりと 学校給食全量有機米の取組



いすみ市長 太田 洋



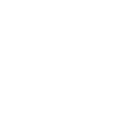
人口:39,360人
(2017年1月1日現在)

イリコマヤシ競技会場地
ローカル線ブームの火付け役
いすみ鉄道
魚種の豊富さで知られる
夷隅川
大原漁港 港の朝市
男社会会館 夷隅 大原はだか祭り
いすみの田園風景

いすみの希少生物 北と南の生きものが出会って共存

 ミヤコタナゴ 天然記念物、国内希少動物、環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類、新水産物の管理域を築くと関係地域など17に指定	 イスマスズカケ 新種・固有種、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、地味でどこにでも咲く花、千葉県唯一の国産種	 アカウミガメ 環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、夏北陸の定期産卵地、いすみ市のワカメ採集地例(2005年)
 コハクチョウ飛来地 豊南産の定期渡来地	 コアジサシ営巣地 環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類	 夷隅川河口湿地 日本の重要湿地500

いすみの恵み 農・海産物、特産品がいっぱい

 器械根アワビ	 いすみっぴこ 農薬・化学肥料不使用、 <u>無リン酸</u> の2次加工食品	 浜ゆてたこ	 たこのやわらか煮	 浜ゆてたこ(ゆのみ)
 器械根イセエビ 漁獲量全国1位77.5%	 器械根ワサビ 平成26年6月27日現在	 いすみ沖たこ(太東、大原産)	 いすみの地だこスライス(生)	 たこのカサ(ゆのみ)
 器械根のイセエビ干物	 いすみ里山の恵み 刺限のこま油	 高秀牧場の手作りチーズ チーズ国際コンクール スーパースター賞受賞	 おぼんの万能だれ	 純米アarus(日本酒) いすみこしあすろ(醤油)
 ほたるの里 幸せのブルーベリー 農薬・化学肥料不使用	 いすみの茹でたこ			

いすみ生物多様性戦略の策定 2015年2月

～生物多様性豊かな地域づくり、里山里海を守り伝える人づくり～



地域資源の活用や地域産業の競争力強化を図るためには、自然資本の維持・増大が不可欠であることから、社会経済活動と自然が調和する地域づくりを推進するために『いすみ生物多様性戦略』を2015年2月に策定

対策の柱7つ 取組事業全186件 重点事業33件—自然と共生する地域づくり事業と連携

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS) 及び生物多様性条約事務局(SCBD)による視察

いすみ市は優良事例として、各国の愛知目標達成支援や生物多様性国家戦略(NBSAP)の改善支援に活用される



市民とNPOによる活発な生物多様性保全活動

夷隅川流域生物多様性保全協議会の3年間の活動



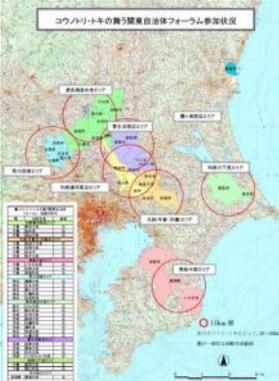
主な事業 2008年～2010年

- ・耕作放棄地の復田作業
- ・尾根筋に作業道整備(4km)
- ・展望デッキ及びベンチを設置
- ・自然観察会の開催
- ・タウンミーティングの開催
- ・いすみの生き物データベースの作成
- ・磯根の調査
- ・地域の生きものマップの作成

耕作放棄された谷津田の再生

コウノトリトキの舞う関東自治体フォーラム

いすみ市は役員自治体として、房総中部エリアで活動の一躍を担う



2010年、野田市、小山市、鴻巣市の3市が中心となり、7つのエリアにその範囲を広げ、趣旨に賛同する自治体が集まり「コウノトリトキの舞う魅力的な地域づくり」の一次ステップを引き続き原動力として、「コウノトリトキが舞う関東自治体フォーラム」を設立しました。フォーラムの目的は、多様な主体の協働・連携によりコウノトリトキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワークの形成を図り、地域の振興と経済の活性化を促す魅力的な地域づくりを実現させることです。

いすみ市はかつてコウノトリ舞う里山



【千葉県誌】No. 131 改定

「鶴居」一水田を見下ろす斜面林(コウノトリの営巣場所)コウノトリのテリトリーを越す半径2kmの円が重ならない

「鶴宮・鶴沼・鶴沼」一夷隅川の氾濫原(コウノトリの採餌場所)

自然と共生する里づくりが掲げた目標

1. 「自然と共生する里づくり連絡協議会」を中心とした、環境保全型農業モデル事業の実施
2. コウノトリをシンボルとした人と生きものに優しい環境保全型農業の普及
3. コウノトリが飛来する環境整備に向けた取組
4. 地域間競争に負けない農業政策の展開(安心・安全で、さらに美味しい農産品の生産)
5. 一次産業の底上げ
6. 環境のまちいすみ=いすみブランドの構築(環境創造型企業の誘致)
7. 新たな観光産業の振興
8. 豊かな自然環境を未来の子ども達に継承

いすみ市の“自然と共生する里づくり”

自然と共生する里づくり連絡協議会 2012年5月設立

環境、農業、経済を柱に市民やNPOと行政、関係機関の協働により、**環境と経済の両立**に向けたまちづくり“自然と共生する里づくり”に取り組む

←いすみっこ(農業・化学肥料不使用)の田んぼに舞い降りたコウノトリ 2014年4月22日



いすみ市山田、ゲンジボタルの里に舞い降りたコウノトリ 2016年4月30日

房総三大米と称されるいすみ米

- 古くからの大穀倉地帯 → 「類聚国史」816年の記述から
- 粘りとコシ、甘みといった食味の良さは「房総三大米」
- 夷隅統(いすみとう)と分類される肥沃で苦土を多く含む粘質土壌
- 戦前にはすでに東京や関西の市場で高値で流通「上総国吉米」
- 皇室献上米(新嘗祭御新穀供御耕作田)の実績多数

↓

現在は、米価低迷、高齢化、後継者不足によって生産維持が困難

水稻産業の活性化に取り組む

新嘗祭御新穀供御耕作田田植祭 1929年6月23日

水稲有機栽培技術の実証と研究 NPO法人 民間稲作研究所と連携

有機稲作モデル
2013年 1団体【耕作者 5名】 110a
2014年 3団体【耕作者 5名】 110a
2015年 5団体【耕作者 14名】 450a
2016年 5団体【耕作者 14名】 870a

水稲有機栽培における
標準技術体系と地域独自の普及指導体制を整備
→2017年度から本格的な量産体制に移行する
6団体【耕作者 18名】 15ha(計画生産面積)

自然と共生する里づくりシンポジウム2016 現地見学 2016年7月2日



地域の資源を活用した循環型の肥培管理

土着微生物を活用した堆肥・有機質肥料の製造センターの稼働(H29～)により循環型有機農業を推進



有機稲作に使用する堆肥や有機質肥料は、安易に外部からの市販品に頼るのではなく、地域の資源を活用した循環に配慮している。オカラや屠大豆、米ヌカ、モミガラ、落葉など原料の特性に応じて発酵など手順を加えて作り、使用割合を高めている

学校給食米の全てを有機米に

いすみ市全小中学校の
学校給食(2,800食/1日)へ提供

2016年の年間導入量
16t(全体の40%)

2017年度米で
学校給食米を全量有機米にする



いすみっこ



未来を担う子どもたちの健やかな成長を願ったお米

「いすみっこ®」取扱店と採用実績

上旬



JAL国内線ファーストクラス機内食に採用

スーパーLEO岬店 グリーンスパいすみ ふるさと納税返礼品

いすみ教育ファーム(総合の学習の時間)

有機米給食と連携した栽培体験及び生きもの(里山)学習



有機米給食が“環境”と“農業”と“食”を結び、子どもたちに深い学びを保障
「健全な環境は、人の健康と健全な社会の源泉である(身土不二)」

消費者と農家の交流

有機米オーナー、柿狩り、菜花つみ、有機味噌づくり等による産消提携

企業と連携した対流モデル事業

イオン(株)と連携した交流活動及び有機米の店舗展開に向けて

取組のイメージ

イオンチアーズの取組 出典:イオン(株)HP
いすみ教育ファーム

いすみ市の自然と共生する里づくりまとめ

いすみ市は
有機農業への転換をすすめています
これは
いすみ市の豊かな自然環境を守り
生物多様性がもたらす恵みをきちんと受け取り
資源が循環する持続可能な地域の実現と
次の世代を担う
元気で健康な子どもたちを育てていくことを目標にした
まちづくりです

2018年 生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA)inいすみを開催

ICEBAに向けたキックオフとして、ラムサール・ネットワーク日本、民間稲作研究所と共催で「田んぼ10年プロジェクト地域交流会 in いすみ」を開催

2017年2月25日(土)
26日(日)